

386名が訓練に参加

- 自主防災組織・避難者が避難の手順を確認
- 炊き出し班がおにぎりを配る

食生活改善推進員・子ども会育成会が400個作成



一般避難者が自治毎に集合しています

目の開催となりました。今回の訓練は、降り続く大雨により奥州市災害対策本部よりレベル3（高齢者等避難）が発令され、その後状況が悪化しレベル4（全員避難）が発令されたことを想定しての避難訓練でした。

振興会だより

令和5年10月25日発行
編集・発行 羽田地区振興会
羽田地区センター

羽田地区振興会は、10月1日（日）に4年に一度の羽田地区自主防災訓練を実施しました。この訓練は平成16年度から行われ、今回で6回

レベル3の発令では、自治会役員で組織される各地区自主防災組織の具体的な動き方（要支援者の安否確認、報告、避難誘導）を、レベル4の発令では、一般市民のZアリーナへの避難行動の取り方を主なねらいとし実施しました。

この訓練には、要支援者に見立てた被誘導者28名、同行する誘導者27名、一般避難者226名、訓練関係者105名、計386名が参加しました。

訓練参加者は、この訓練に付随した形で行われた水沢消防署員による「煙体験」、奥州市防災士会（絆）による「伝言ダイヤル117」、旧いこい食堂での「マイタイムライン説明会」で学習を深めました。

羽田地区自主防災組織は、振興会正副役員と各部会から構成され、建設防災部会は避難誘導、農林保健部会は救護、文教福祉部会は安否確認、商工観光部会は炊き出しを任務としています。

今回の訓練では、商工観光部会が中心となり、食生活改善推進員と子ども会育成会の協力のもと、178合の米を炊き上げ、塩おにぎり400個以上を握り、訓練参加者に配りました。

町内の関係機関である交通安全協会の方には、幹線道路の車両誘



食改善推進員の皆様には前日からご協力をいただきました

導、防犯協会の皆さんには町内の巡視、消防団の皆さんには体育館駐車場で車の誘導にご協力をいただきました。

振興会では、今後とも「訓練無くて避難無し」を合言葉とし、災害発生の恐れがある場合には、主体的に自らの命を守る行動ができるよう訓練を実施してまいります。

及川協一市民環境部長から、「災害はいつ起こってもおかしくない。今年8月の豪雨では、前沢や真城で断水や氾濫があった。身近かに災害が近づいていることを感じている。市では、避難所に非常食等備蓄しているが助成だけではカバーしきれない。自主防災組織や各家庭での備えが大事になってくる。このような訓練を積み重ねることで地域の安心が作られていく」との講評をいただきました。



防災訓練に参加する羽田地区の住民ら

地域で高める防災力

羽田地区が自主訓練

水 沢

羽田地区振興会(橋本欣也会長)主催の羽田地区自主防災訓練が1日、水沢羽田町の市総合体育館(2アリーナ)で行われた。市消防団や同地区防犯協会など関係団体協力の下、水害が発生した想定で実施。地区住民らは災害発生時の行動を確認し、知識と体験を共有して防災力を高め合った。

同振興会が4年に1度行っている。防災に対する意識啓発を図るとともに、町内関係団体と協力体制を構築。災害発生時に自分や周囲の人の命を守るための行動を具体化し、被害を最小限に抑える狙いがある。

約300人が参加。大雨による浸水被害が発生、警戒レベル4(全員避難)が発令されたという想定で行った。2アリーナに災害対策本部を設置。訓練が始まると地域の連絡網を活用し、自宅にいる市民に電話で避難を呼び

かけた。橋本会長は「近年、全国的に災害が多発している。羽田地区以外でも起こる可能性はあるので、皆さんも災害に備えてほしい」と注意を促した。

同地区センターの今野俊宏センター長は防災訓練を通じて、2アリーナが指定緊急避難場所であることが、少しでも多くの人に認識してもらえればと話した。

同日は、水沢消防署による煙体験訓練なども行った。

『心がけたい災害への備え』

羽田地区振興会会長 橋本欣也

◆ 今回の訓練は4年に一度実施している訓練で、奥州市をはじめ、各関係団体・各関係者の皆様に日曜日の中来ていただき、色々とご教授いただいた。

◆ 災害という関東大震災や東日本大震災が思い浮かぶが、今年7月に隣の県の秋田県で大洪水があり、2000人の方々が被害を受けて

◆ いる。また、他県でも多くのところでそういった災害が起きてきている。

◆ もう一つ忘れてならないのは、羽田地区で甚大な被害が出た昭和22年、23年のアイオン・カスリン台風がある。76年前の出来事なので大方の人は忘れてしまっていると思うが、この機会にまた昔を思い出してほしい。

◆ 災害はいつ起きるかわからないので色々備えが必要である。今日の訓練を通してまた心がけてほしい。